

# 保健研究部

大阪市立幼稚園51園の養護教諭で構成している研究組織です。子どもたちの健やかな成長を願い、討議会や情報交換を通して資質向上に努めています

令和6・7年度 研究主題

生命(いのち)の安全教育を通して、自分の体に関心を持ち  
大切にしようとする心を育む



## ★2年間の取組を



## 大阪市立幼稚園教育研究会成果発表会で発表しました★

### 研究に参加した部員からは

- ・小学校に上がるまでに理解してほしい項目ではあるが、伝えるのが難しく感じた。指導を通して、急いで着替えることを意識する様子があった。
- ・保健研究部で意見交換をし、研究をすることでどのように進めたらよいのか相談できたため、取り組みやすかった。
- ・部会で絵本や教材について情報交換ができた。また、指導案や実践記録を検討し合うことができたので、自園での実践にとっても参考になった。
- ・幼児の実態によっては、一般的に生命(いのち)の安全教育と言われる内容を実施することが難しかった。
- ・幼児自身にプライベートパーツの意識がなく、意識付けを行うのが難しかった。幼児期から身に付けることは大切だと思うので、幼稚園で実施するよいきっかけとなった。
- ・幼児は、小中学生よりも自分事として聞こうとする姿があり、恥ずかしいという気持ちが少ないため取り組みやすいと思った。
- ・幼児にどのように教えるのかという方法が確立していないため、研究として取り上げて、考えることができ非常に良かったと思う。
- ・幼児はしっかりと話を聞いていて、想像していたより理解している様子だった。教職員の理解と協力もあり、スムーズに取り組むことができた点もあるが、幼児の発達段階に合わせた内容の設定や、幼児に分かりやすい工夫を考える点については難しいと感じる部分があり、研究テーマとして取り組めてよかった。



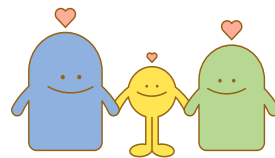
## 成果発表に参加した会員の先生方から



- 保健指導を受けて終わりではなく、担任と養護教諭が連携して継続して子どもたちに声かけを行い、プライベートパーツの大切さを伝えていく必要性があると気付いた。また、正解の指導を行うのではなく、それぞれの園の最適解を見つけるということも新たな気付きで、子どもの実態を見極め、実態にあった取組や声かけをしていきたい。
- 保健の切り口だからこそできる研究の中で、保健に留まらず自分自身や友達を大切に思う気持ちを育てることに取り組んだのは素晴らしい研究だと感じた。普段からしている保健指導の全てが自分自身を大切にする教育につながるということが、大切な研究の成果だと感じた。
- プール遊びに関する実践など、幼稚園教育要領に沿った日々の保育との関連も分かりやすく、国における新たな教育施策が保健研究部の取組を通して、よく理解することができた。
- 体に関心をもつということは、身体的なことばかりでなく、心、気持ちも含まれることに改めて気付き、心の健康について考える機会となった。心の健康を子どもにどのように伝えるか、様々な実践を通して学ぶことができた。



### 研究で学んだこと



研究を進めるにあたって、まずは養護教諭自身が生命（いのち）の安全教育について学ぶことから始めました。その上で、生命（いのち）の安全教育の取組は自己肯定感を高め、自分も相手も大切にする気持ちを育てていくと共通理解しました。幼児の実態と課題を年齢別に把握し、発達段階に応じた保健指導を行い、それを園内の教職員で共有して継続して取り組むことで、幼児の意欲や態度に育ちが見られました。

幼児期における生命（いのち）の安全教育のねらいは、文部科学省の「生命（いのち）の安全教育における指導の手引き」に「幼児の発達段階に応じて自分と相手の体を大切にできるようになっていく」と示されています。2年間の研究を進めていく中で、幼児期の生命（いのち）の安全教育は、いわゆる性教育に特化したものだけではなく、清潔、病気・けがの予防、食育など、今まで幼稚園で行ってきた保健指導によっても自分の体を大切にする気持ちや、相手を尊重する気持ちが育まれ、ひいては、命の大切さについて気付くようになることが分かりました。

今後も、幼児が自己肯定感を高め、自他の生命（いのち）を大切にしようとする心を育てるように、教職員と連携して、幼児の実態に応じた継続した取組と保護者啓発を続けていきたいと考えています。

